

熊本県立荒尾支援学校進路便り NO. 9

わーく&らいふ

平成29年1月12日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

★連載「キャリア教育基礎講座④」～余暇はオアシス～

★トピック 同窓会「たけの子会ボウリング大会」開催

連載「キャリア教育基礎講座④」余暇はオアシス

キャリア教育基礎講座では、「働く」ことの意味からはじまり、働く大人に「育てる」ことが重要であることを考えてきました。もうおわかりのように、知的障がいのある子どもたちは、私たちが生きていく中で自然に学んでいくことが、周囲の期待通りにはできないのです。ですから、将来必要になるであろう力は、周囲の大人が計画的に「育てる」ことが非常に重要です。もっといえば、「できる」だけでなく「習慣化」が重要です。そして「育て」て「習慣化」すべき力は実に多様で多岐にわたることを理解しておく必要があります。

今回のテーマは「余暇」です。

■「遊び」を教える事への疑問に答えて



「余暇」活動といえはいわゆるレジャー的な内容を思い浮かべるかもしれません。

お金がかかる遊びや楽しみというイメージが強い言葉なので、保護者の皆様の中には、お金を遣う遊びをなぜわざわざ教える必要があるのかという疑問もあろうかと思えます。

しかし将来必要な力は計画的に「育てる」必要があることは、余暇についても例外ではありません。しかも仕事の合間や休日をどう過ごすかを正しく教え、きちんと習慣化しておかないと、将来の社会生活への参加と継続が困難になるだけでなく、金銭問題をはじめとしたやっかいなトラブルに巻き込まれ易くなることを肝に銘じておく必要があります。

■卒業生のケースから見た「余暇」の重要性

支援学校の卒業生で、勤続10年休むことなく働いてきたのに、ある日突然入社拒否や家族への暴力が現れたケースがあり、相談していくうちに休日の過ごし方に問題があることがわかりました。要するにお給料をもらっているにもかかわらず、それを自分のために使っている感覚が育っておらず、働き続ける意欲の低下につながったと考えられます。

学校卒業以来休日は、家族とのドライブのみ。しかも家族の予定に縛られるため自分の余暇という感覚すらなかったと思われました。



そこでこのケースには、ヘルパーの移動支援を活用し月一回「カラオケ」外出を開始しました。会社にもお願いし、自分のお給料と楽しみの関係も話題として学べるように支援をしていただきました。すると入社拒否が嘘のように収まったのです。

障がい者の場合、家族以外との交流が自然には広がらないという事実があります。その上、親も高齢化し、いつかはお子さんとの余暇を過ごすことが難しくなります。そのときに困らないよう、家族以外と過ごす余暇活動を早期から準備することも大切なことです。

■一人で過ごす余暇の大切さ

余暇には一人で過ごす内容と集団でする内容があります。どちらかが重要というわけではなく、二つの視点で余暇生活の準備をすることを意識する必要がありますが、前者は家庭で十分準備が可能な内容です。例えば高等部の現場実習先での休憩時間を想像してみてください。短い休憩時間や昼食後の比較的長めの休憩時間も、つまりは「余暇」ですので、これらをうまく過ごす力が、意外と重要です。気持ちを切り替えストレスを軽減するからです。

しかし一般に職場の休み時間と言えば、実習先の人と会話を楽しむなどの知的障がい者にはそもそも難しいスキルを想像しがちですが、それよりも、一人で何かをして休憩時間を静かに過ごせて、時間がきたらきちんと「余暇」を終わりにして（終わりを受け入れて）仕事や活動に戻るスキルがとても重要です。

つまり一定のルールに従った上で楽しむことを学ばせる必要があるということです。



■意思尊重のつもりが、子どもを危険にさらすことも。

ひとりで過ごすと言えば注意すべき事があります。

長時間のテレビゲームやスマートフォン、夜間のゲームセンターや歓楽街への外出などで歯止めがきかず、言わば「余暇」（歓楽）に依存してしまった結果、触法行為に走ったり仕事を失う卒業生の例も出ています。

子どもには興味のあることをさせたいという意思尊重のつもりが、いつのまにか楽しいことしかやらない歓楽依存の一日となってしまうことがあるようです。

「余暇」は、自分のすべきこと（役割）を果たした上で余った時間や休日をうまく過ごすための方策であるべきです。私たち支援者は子どもにとっての「余暇」が、一日の主役にならないように、あくまでも、何かを頑張った対価としての「余暇」という意識付けと、歓楽におぼれていかないように、厳にルールを守った上で楽しむ習慣化を小さいうちから図ることが重要です。

これは親・支援者としてはとてもエネルギーがいることですが、青年期になってやろうとすれば更に大きなエネルギーが必要です。早期から計画的に育てるべきことだと思います。



■余暇はオアシス

今回のキャリア教育基礎講座は、「余暇」の重要性と、計画的に余暇生活を準備していくことの必要性を考えました。私どもも、次の休日や、何かのイベントへの参加、誕生日など自分や家族などの大切な人とのハッピーデーを楽しみにして生活しています。まさに余暇はオアシスと言えます。本校の子どもたちには余暇の、正しく効果的な過ごし方を早くからプログラム化して教えていく必要があります。

「わーく」と「らいふ」の調和のとれた生活をめざしたいものです。

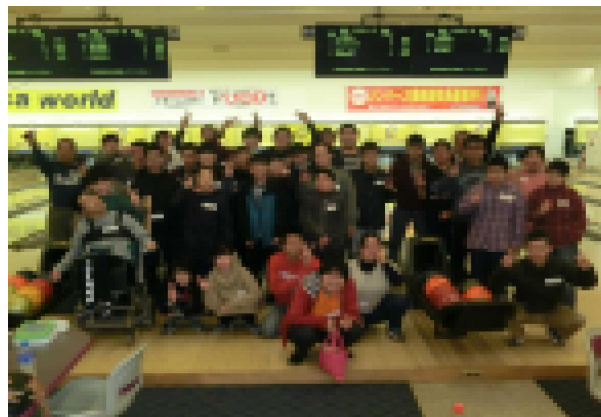


トピック 「たけの子会ボウリング大会」開催

今回の基礎講座との関連もありますが、本校同窓会でも、卒業生の余暇活動支援を実施しています。

卒業生の皆さんの中には、同窓会に毎回欠かさずに参加してエンジョイされる様子も多く見られますし、次の同窓会イベントを心待ちにしておられる例も多いようです。

今回は、12月3日(土)に開催されました『第7回 たけの子会ボウリング大会』のようすをご紹介します。



■久しぶりの再会に笑顔満開

卒業生が32名(H27卒～H14卒)、保護者の方々や先生方などあわせて50名以上が集まり、久しぶりの同窓生との再会をみなさん喜んでおられました。

■大会の様子

開会式では、役員さんのあいさつと、全体写真撮影がありました。

その後恒例の、宮田校長先生による始球式では、見事ストライク!

スタートからとても盛り上がった会となりました。

ゲームが進むにつれて、学年を超えた交流やハイタッチ、拍手などが



増えてきて、和気あいあいとしていました。テーブルごとに写真撮影した際も皆さんの笑顔がとても輝いていました。

■近況報告

仕事や居住地によって、荒尾支援学校卒業後は集まる機会が減ったようですが、久しぶりに同級生や先生方にお会いして、皆さん話が膨らみ、とても楽しそうな様子でした。

大会後、近隣の商業施設で会食を楽しんだ同窓生もいらっしまったようです。



■表彰と参加賞

2ゲームをこなし、楽しんだ後の結果発表では「自分か、自分か?」と心待ちにされている人もたくさんおられました。

男女それぞれの1～3位とブービー賞が発表され、1位には宮田校長先生から賞状と景品、2・3位とブービー賞には景品が授与されました。

それに加え、参加同窓生全員にジュースと参加賞(ふくやまベーカリーのメロンパン)が渡されました。解散後の皆さんの表情はとても嬉しそうな表情で、楽しく充実したボウリング大会となったようです。



◇進路だよりに関する保護者評価アンケート 結果報告①◇

アンケート回答率は53.6%。この種のアンケートにしてはまずまずの数字で、保護者の「進路情報」への関心の高さが窺えました。内容に関しては、86%が「よい」以上の評価であり、改善目的はほぼ達成されています。また、自由記述欄に記載された保護者の声には特に「キャリア教育基礎講座」の内容についての関心・評価が高く、進路だよりが、家庭・学校が連携協働したキャリア教育の推進に寄与する可能性を感じるものでした。次回結果報告②では、保護者のお考えに焦点を当てて紹介します。

しっかり読む	15
だいたい読む	44
目を通す程度	15
読まない	0
「読んでいますか?」	
かなりよい	15
よい	53
どちらともいえない	11
よくない	0

「内容は?」

＜編集後記＞

1/9は成人の日。各地で様々な「成人式」が行われました。私の居住地熊本市では「障がい者成人式」が行われ、支援学校の卒業生と保護者がともに成人を喜び、輝いたひとときを過ごしていました。新成人代表は誓いの言葉の中に「会社(世の中)に貢献できる大人になりたい」と語り、これまでの恩に感謝した上で宣言した言葉は、参会者の心に強く響くものでした。私たちはその人生の伴走者としてあらんことをあらためて感じました。(谷口)

